

会報 97号

発行 一般社団法人静岡県介護福祉士会

Bon くらーじゅ



(フランス語でがんばってね。いい働きをしてねの意)



介護の学舎2023

テーマ「介護の明るい未来」～それぞれの視点～

開催日／9月17日(日) 会場沼津プラサヴェルデにてハイブリッドで開催されました。

聖隷クリストファー大学院との共催で7回目を迎えた介護の学舎。「学生」「利用者・家族」「地域」「人材育成」の4つの視点から介護の未来を考えました。

冒頭の野田先生の挨拶では、学生を育てるだけでなく、県内の介護現場が元気になって欲しい願いがあり、利用者、介護職員、家族の皆さまに笑顔が届けられる人材、今はマスクで大切なことが見えない瞬間も多いが、利用者の想いを受け止められる人材を育てていく、実践していく必要性を話され、新調したワンピースで臨んだファッションジョークも冴え渡りました。野田先生の話を受け、日本介護福祉士会及川会長は、一昨年まで学舎の校長であったため、袴の和装で参加されたことを振り返り、ファッションジョークのバトンを引き継ぐ連携は流石で、場の緊張を穏やかな学舎の雰囲気に変えて始まりました。

前半の及川会長の基調講演では、ご自身の介護福祉士資格取得前の介護技術の未熟だった頃の反省から、今日の介護福祉士の活躍の話になり、「大変な介護を担っているんだ！そして利用者さんのQOLに繋げているんだ！ということをしかりと”胸を張って主張して欲しい”とおっしゃられた場面では、参加者の皆さん一緒に大きく頷かれていたことが印象的でした。介護の明るい未来は「介護福祉士が創造する」と繰り返されたフレーズは、皆さんの心に刻まれたことでしょうか。



聖隷クリストファー大学 野田由佳里先生 日本介護福祉士会会長 及川ゆりこ氏

～4分科会の概要～

学生の視点 「実習をテーマにクイズ!」

県内養成校の学生さんから事前アンケートにご協力頂き、84名の回答をもとにクイズ形式でディスカッションを行いました。ご利用者さんとのコミュニケーションの難しさや社会人になってからの夢の話など、様々な意見を聞き、実践者にとっての思いもよらない貴重な気づきを頂けたのではないのでしょうか。また、コメンテーターの鈴木先生が学生さんの意見を要約され、介護の仕事は始める楽しみと続ける楽しみがある。始める楽しみとしては、「カッコいい仕事」「あこがれる仕事」であること。続ける楽しみとしては、「夢を持ち続けることが出来る仕事」と話されました。学生さんから「カッコいい介護福祉士になりたい」との意見を頂いた皆さん、今の自分がかっこいい介護福祉士であるのか見つめ直す良い機会ではないかと思いました。



利用者家族の視点「ヤングケアラーを知る」

冒頭、県こども未来局の北川さんからヤングケアラーの実態や県の支援施策の話があり、その後、ヤングケアラー協会の理事を務め、支援活動を行っている浜松市在住の高垣内氏から、20歳から10年間認知症の祖母の介護に携わってきた実体験が話されました。アドバイザーの安藤氏からは、学校、医療機関、市町の担当者の連携の必要性が重要なこと等、数時間では学びきれない奥の深い内容でしたが、まずは私たち介護の専門職がもっと現状を知り、理解を深める必要性を痛感しました。



地域の視点「福祉×旅行 ⇒ 共生」

障がいの有無に関わらず、伊豆地域の宿、交通手段を提案し、楽しく交流できる企画・運営をしている青いかば旅行社の長谷川さんご夫婦にその活動の概要、思いを伺う機会としました。

地域活動から私たちに何ができるのかを問いかけ、「無理しなくても、身近な事から始めてください」と話されていました。青いかば旅行社の長谷川さんご夫妻の様々な工夫や事業上での方法を知ることができ、実際に障害のある方の視点に立って見直さなければならないことや、一般の方や学生さんと一緒に楽しめるツアーなど地域を巻き込んだ発想は素晴らしいとの意見を頂きました。



人材育成の視点「どうしたら人は育つのか」

職員教育の成功、失敗事例から私たちは何をすれば良いのか、共に考える機会としました。「白扇閣の人材育成への取り組みを拝聴し、他施設の人材育成制度を知ることができ、大変勉強になった。」「ディスカッションのなかで、どの施設でも同じような悩みがあると知り、情報交換を行うことができてとてもよかった。」「これからの人材育成は、10年後、20年後を見通して、考えなくてはならないことを知りました。」と参加者からの意見を頂きました。



全体会では、鈴木先生から学生にとってのコミュニケーションは実習で、職員と利用者さんの介護場面に関わることで、ひとつの介護場面の中でその人の全てが語れることが介護実践の専門性で、介護過程そのものを学ぶ場がコミュニケーションの実践になることに気づかされたこと。篠崎先生からは、介護福祉の実践は気づかれない、気づかせないのが介護福祉士、災害という特殊な現場で専門性を発揮して、時にさりげないお手伝いとして、時に認知症状のある方と過ごし、笑顔に変えていくことができるのが介護福祉士であること。災害に関わる自分にとって「どこのどなたですか」と尋ねられた時、「ただの通りすがりの介護福祉士です」といえるような、カッコいい介護福祉士になりたいと思いました。また、介護職ではなく、介護福祉士であることを自身の言葉で語れることも希望されました。

野田先生からは仕組みと仕掛けの話、介護はクリエイター！自分の場所で、できることをコツコツと行うことが大事、介護はAIにとってかわらない職種であり、誇りをもってエッセンシャルワーカーとして頑張って！とエールを頂きました。さらに介護の仕事は強くて、優しく、心地良くて、あたたかくて、やわらかいと表現に心がほっこりしました。最後に添えられた参加者の一言こそ、学舎の成功を間違えのないものにしたようです。

“仕事以外の場所で、フランクに話ができ、学びができる場所が学舎” ぜひ来年の学舎で語り合しましょう！！

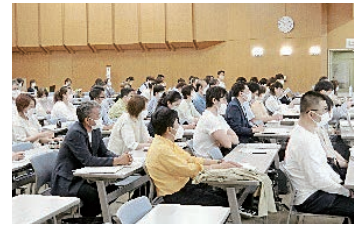
令和5年度 第15回定時総会並びに記念講演開かれる

5月21日(日)シズウエルにて総会が開かれ、代議員50名の出席により、4議案が可決された。入会20年には2名の対象者が臨席され、表彰状が授与された。その後、丹野智文氏の記念講演に100名の方々が聴講され、当事者からの話に耳を傾けた。

「自分で決めて自分で動く」

「介護する自分の思いを押しつけていなかったか?」「利用者様のやる意欲を重んじていたか?」利用者様のできることを奪わない、奪わない環境をつくること、できるまで待つこと、失敗しても怒らない等、目の前の利用者様、そのままを見ているか…。丹野さんの講演後、介護に携わる自分を振り返る機会となりました。

39歳で若年性アルツハイマー型認知症と診断された丹野智文さんは、葛藤しながらも前を向き、職場の理解を得ながら、認知症と共に生きていく決意をして、“ありのまま”の生活を継続しています。認知症当事者として、若年性認知症の会で認知症の進行状況やその対応を学び、少しずつ不安を解消していったと言います。認知症でも希望が持てること、できないことはできないと伝えてサポートしてもらうことが重要で「自分で決めて自分で動く」丹野さんの原動力になっている気がしました。



丹野 智文氏

今の介護現場の現状は、慢性的な職員不足。業務に追われ時間がなく、利用者様がゆっくり時間をかければできることも介護職員が手伝ってしまうことが多くみられます。そんな中でも職員同士で話し合う環境を作り、成功パターンや言い方を工夫すること等、助け合う気持ちを持って、実践していくことで、認知症の進行も緩やかになり、利用者様、介護職員両者に、良い影響を与えることになるのではないかと思います。

介護職員は、出会えた人をサポートするだけではなく、誰もがパートナーを思い行動することが大切だと思います。同じ思いを共有し実践すること、人と人がつながることで、利用者様の笑顔があふれるはずです。今回、当事者から公の場で、直接話を聴く貴重な時間でもあり、職員に一人でも多くのことを伝えていけたらと思います。今後も様々な利用者様に関わる時、今日の講演で聞いたこと、感じたことを思い出しながら、今後の介護に活かしていけたらと思います。

理事 村松 正広

前期ブロック活動報告 (4月～9月)

富士・富士宮 7月26日 19:00～20:00

オンライン交流会「輪を広げよう」

ブロックの現状の情報収集を目的として、介護現場で困っていることや疑問など気軽にディスカッションできるオンライン交流会を実施しました。



少人数ではありましたが、一人ひとりの声が聴けて良かったと感じます。就労・人材不足、若手の人材育成、担い手の減少など問題は山積みではありますが、介護職員のモチベーションがアップできるような研修や資格取得につながる研修などの情報も共有していきたいです。

富士・富士宮ブロック委員 市川 智子

熱海・伊東 8月16・30日 17:30～18:30

ミニ研修会「認知症ケア」オンライン研修

事前アンケートで、困っている事例や質問などを情報収集し、その質問に対して講師が丁寧に対応して下さったことが受講生の満足度につながったと思います。前年に引き続き2回目の認知症ミニ研修会でしたが、違う視点・切り口からの内容で、参加者からも高評価をいただき、今後も継続できるように検討をしていきたい研修だと感じています。

事後アンケートに自由記載を取り入れ、数値では得られない生の声を聴くことができたことは企画者、講師ともに感謝と励みになりました。

熱海・伊東ブロック長 長岡 紀澄

志太・榛原

9月9日 10:00~12:00

「介護職員が考えるべき
転倒予防の視点」

群馬県医療福祉大学短期大学部助教授の植田裕太郎氏を講師に迎え、転倒予防の視点について学んだ。



今までの転倒予防の研修は、事故・ヒヤリハットの分析や、危険予測生活環境整備の研修が多くありましたが、視点を変えて「水と薬の観点から」内発的要因の視点に特化した研修とさせていただきます。

LIFEの開始により、介護にも数字の根拠が求められる時代となりました。今回の研修は、現在の介護の立ち位置に添った研修であったと感じています。

志太・榛原ブロック長 大橋 一良

中東遠

9月30日 13:00~16:00

「介護予防講座」

小笠掛川保健・福祉・医療研究会と協賛して介護予防講座を実施しました。

木本愛郎先生の介護予防体操では、ゆっくり簡単な体操では、あまり効果は得られず、敏捷性・平衡性・巧緻性・柔軟性をすべて取り入れた体操が最も効果があることを知りました。また、高齢者の認知症や要介護状態には社会参加が重要な役割を果たしていることを学びました。

後半は、佐々木夏子先生による介護予防のための口腔ケアや低栄養予防のための食事改善の講義があり、いろんな視点から介護予防を考え、学ぶことができました。



中東遠ブロック委員 齋藤 佳香

静岡市介護福祉士会 6月4日 9:30~12:00

「己書 & 白扇閣施設見学会(福祉機器体験)」

久しぶりの対面式イベントとして己書講座と会場となる白扇閣の施設見学会も同時開催させていただきました。個性あふれる文字をステキに描くことで、味のある己書に仕上がっていく過程を皆で共有し、楽しむことができました。

施設見学会では、最新の福祉機器体験や事例発表を聞くことでICT活用によってどんなメリットがあるのかを知ることができました。

遠方からも多くの方が参加してくださり盛況のうちに終了することができました。協力いただいたスタッフのみならずありがとうございました。



静岡市介護福祉士会ブロック長 山田 英和

浜松 5月10日・6月21日・7月19日 18:30~20:00

「身体のしくみと機能」

古川和稔先生の楽しいトークとわかりやすい説明で3日間のオンライン講義が開催されました。

参加者から『介護の可能性の広がりを感じました。2度目だったのですが、身体のしくみを理解することで介助の質を高め、利用者の生活レベルを改善していくことが良くわかり、何回聞いても勉強になります』『利用者様に寄り添う介護職だからできることは、まだまだ無限。ここで学んだことを自職場の職員と共有し今後のケアに活かしていきます』と前向きで熱い感想をいただきました。

浜松ブロック長 磯部 利之

後期ブロック活動紹介

※詳しくは静岡HP(shizukai.jp)をご覧ください。

現場のニーズに沿った研修が目白押し、会員は無料で受講できます是非ご参加ください。

- 静岡市介護福祉士会 介護技術基礎講座「移動・移乗の介助」(ハイブリッド) 10月15日(日)9:30~12:30
- 熱海・伊東ブロック 摂食・嚥下ケア研修会(ハイブリッド) 10月22日(日)10:00~12:30
- 中東遠・浜松ブロック 「嚥下を学ぶ」 11月18日(土)14:00~16:00
- 志太・榛原ブロック 「食事介助 応用編」 12月2日(土)10:00~12:00
- 駿東・田方ブロック 「対人コミュニケーション」 12月3日(日)14:00~15:30
- 駿東・田方ブロック 「アセスメントの基本的な理解」 2月18日(日)10:30~12:00
- 中東遠ブロック 「レクリエーション講座」 令和6年3月予定
- 志太・榛原ブロック 「拘縮予防」田中義行講師で2月予定(オンライン研修)



<イベント>

- 駿東・田方ブロック 三島市すこやかふれあいまつり 11月12日(日) 三島市民体育館
- 浜松ブロック 北区Deまつり Final 11月26日(日) 都田総合公園

知ってるようで知らない

介護・福祉 サービス

看護小規模多機能型居宅介護(看多機)とは



ご自宅での生活を望み、在宅のまま介護を受けたいご利用者のニーズに応えた支援を目指し、「ご利用者に寄り添う」ことから始まった小規模多機能型居宅介護(以下、小多機)。その在宅支援で柔軟に対応できる小多機に訪問看護サービスを定額料金内でプラスしたサービス。つまり、通い・宿泊・訪問介護・訪問看護の四つのサービスを一事業所でやってしまおう！と言う事。

ご利用できる方は、要介護認定(要支援の方は利用不可)を受けた方。がん末期の人・老衰など自宅で最期まで暮らしたい人・自宅への退院に自信がない人・人工呼吸器などの医療器具類を使用している人・病気が悪化しても病院ではなく自宅等地域で治療を受けたい人・介護している家族が病気などで介護不安定の人・認知症のある方等、在宅で医療を受けている方も利用できちゃう。

そして、私の事業所での一番のメリットが看護の専門職と介護の専門職が常に協働し、ご利用者の生活を考えた視点で同じ方向でサービスを提供している。つまり、医療職として病状を改善するための最善のケアを知っている看護の専門職が、個々の利用者の人生に関わり生活者としての視点で、人生史を踏まえた生活課題を介護の専門職と一緒に考え、利用者を支えている事だと思う。その為、自宅への退院が難しいと判断された方や、施設入所としか考えられない場合でも、個人や生活全体を捉えて、自宅で暮らせるための可能性を考えて、もう少し在宅で頑張れるね。という選択肢も残されているんだね。

また、4つのサービスは介護保険内料金が定額制(一回ごとの請求ではなく、月の金額が変わらない月謝制)の為、「訪問看護・介護」を緊急時等で何回利用しても料金が変わらない。それは、介護度の区分変更をしなければ、ご利用者の状態の変化やご家族の状況により、介護サービスの量が増加しても介護保険内利用料金が変わらない。登録者全体(当事業所では登録定員29名)のサービスの量を調整して、登録者全員がこのサービスをシェアしていると言う事なのです。それだけに運営する側には、サービスの量に関わらず、一定料金が頂ける為、サービス提供する側の資質が問われる。どんなに良いサービスや制度があっても利用者視点で運営しなければ、意味がない事を自問しながら、地域包括ケアシステムを担う看多機サービスの可能性を考えていきたい。

福祉レクリエーション

「ペットボトルキャップカーリング」



<目的>キャップを滑らすことにより手の機能の維持向上を図る。

<対象者>認知症の方もできる、介助があれば車イスの方もできます。

<遊び方>テーブルの端に点数表を貼り、反対側の端からキャップをテーブルに添って滑らせる。テーブルの端を手のひらで押す。
人さし指ではじき滑らせる。

1. 味方のキャップに当てて高得点に入れたり、相手のキャップに当てて押し出します。
2. 投げ終わった段階で得点の輪に入っている点数を合計して、得点の高いチームが勝ちになります。

点数表の中心が一番近い赤のペットボトルキャップよりも、内側にあるペットボトルキャップだけが得点となるので、この例の黄色チームの得点は3点となります。得点のカウントは、負けたチームの一番中心に近いペットボトルキャップから内側にある勝ちチームのキャップ1つにつき1点がカウントされます。相手チームのキャップより内側に勝利チームのキャップが3つあれば3点、という具合です。

駿東・田方ブロック 倉島 修

新入会員の加入状況

令和5年10月現在

(会員番号2205179～2205230)50名



■富士・富士宮ブロック	3名	■駿東・田方ブロック	8名	■下田・賀茂ブロック	1名	■静岡市介護福祉士会	8名
■志太・榛原ブロック	10名	■中東遠ブロック	3名	■浜松ブロック	17名		

フェスタシズウエル2023に協力 ～8月19日(土)～

酷暑、猛暑といわれた今夏、3年振りに事務局が入居する会館の催し「フェスタシズウエル」が開かれました。高齢者疑似体験を通して「80歳を体感しよう!」と介護福祉士のブースには多くの小さなお子さまも来てくれました。“見えにくいね”“歩きにくいね”との感想から、おじいちゃん大変なんだね～と思いやりのある言葉が聞かれ、ほっこりした一日でした。



介護技術コンテストに来て見てGO!

「つながる瞬間!重なる思い!心が動けば身体も動くこれが介護の魅力!」をテーマに競技者13名による介護技術コンテストが11月25日(土)静岡県コンベンションセンター(グランシップ)10階で開催されます。

介護技術のテーマは「認知症のある方の外出支援」です。ADL情報、IADL情報、事例の概要、居宅サービス計画書、週間サービス計画書は当会HPからも閲覧できます。会場では、施設、在宅用の福祉用具の展示、体験や排泄ケア用品、口腔ケアの展示等、また「コミュカを高める」としてアナウンサーによるミニ講演もあります。介護職の方々による日頃、磨き上げた技を見にいらしてください。介護現場を見ることのない一般の方々にも情報提供し、お誘い下さい。



出前講座スタートしました!

会員講師により「認知症ケア」「ターミナルケアの理解」等、12のテーマで基本的な内容を講義します。事例に合った内容で介護経験豊富な講師の現場での気づきやエピソードを聞くことができ、質疑応答で、さらに学びを深められると大変好評を得ています。対面のみならずオンライン講義も受付けていますので、ぜひ、自施設で実施してみませんか。



地域密着型サービス外部評価事業 調査員現任研修開かれる

10月9日の調査員研修は、担当の杉本理事の進行で行われました。

7～8月にオンラインによる調査員養成研修を修了された方々も交えての研修となりました。継続調査員の方々との意見交換では、訪問調査スタート時の場の雰囲気作りが重要であることや聞き取りのポイント等を真剣に聞いていました。訪問調査は下半期に集中しますので、調査員の皆さんの活動よろしくお祈りします。



広報委員より



会報誌「Bonくらーじゅ」で掲載したい内容、取材してもらいたい事柄などありましたら、右記QRコードより会報誌Bonくらーじゅアンケートフォームへ入力し、送信してください。みなさまのご意見お待ちしております!



編集後記

今年45周年を迎えるサザンの曲をBGMにドライブ気分で、介護の学会会場へ向かいました。7回目の介護の学会も3年振りの会場開催。仕事終わりの19時からの実行委員会を重ねて会員主体で本番を迎えました。初の東部会場であったものの、感染症の影響もあってか参加者数かもひとつ。その分ディスカッションの時間が多くとれ、参加者は大満足でした。

外は相変わらずの暑さでしたが…学会で語り合った参加の皆さんの熱はそれ以上でした!(事務局)

